節用集

玉くし　華品
詞を若くもち

利
20
25

へ12
20
21

特
利12
門
諸20
巻21

源氏廿六文の八月のまき

中宮のおまへに秋の菓どうへ給へるを

秋好ノ六条院ノ方

のぐうちもこ家ぬはく色ぬ出てうつくしあ

ろぐぶあぐぶのきぬ紙ゆひまぜつ結るぐさ菓の

えぶざぐすぐ・あさ夕霧のひろもれつる

ゆふぐれ・月うちやうやうさて・けうりつるさ野べの色と

ろろまろ・菓の山もはすれて・遠くうゆも白く・

ろろもあぐぐやうるり・芸秋のあくそひて・

芳ろり・秋ところろすぐ人いうずまろりけるとおるさ

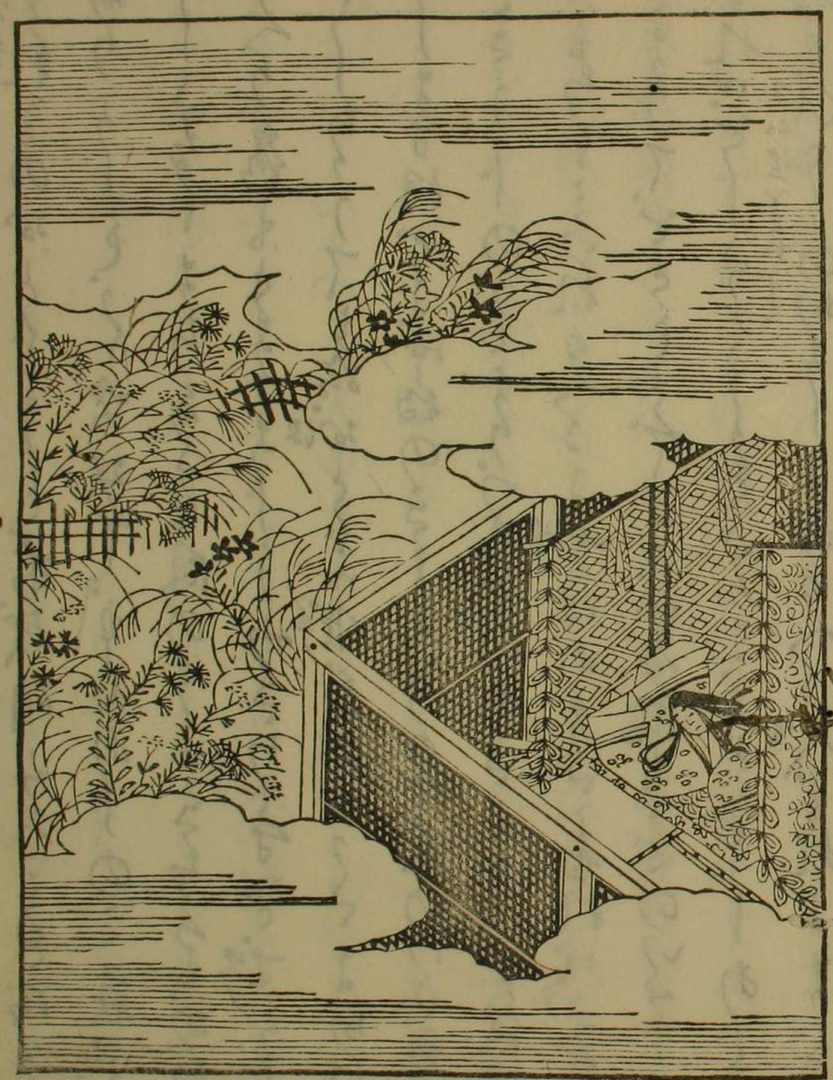
ろ菓のおまへのもれぞのる心ちをし人ぐまろ

ひ・ろ人ぐ・ろ・ふ気色世の有さ海まろ・

秋好ノ

れをかろぐつろ・ぐろるしのつぼぐ此

あそびなどもあるべしれど八月(秋好)の
はじめ頃(き)なれば心もとなくあるべしつあけくれ
この菊のうつろひまさりたるを見んずるに(の)
例(ためし)のうつりかはりにかはりてしくれの文をうりて
あさいろ菊どもの色々をいとはなやか
ちまめ人ぞおれわりるをうらやましてて
華もしの春の玉のばそこまでまるれうろ
さぶらもとめべくあるしうちの袖し
あさのもうしまそはしげるれもまるる
地もうすく咲まもうしていとけてつあけれべみ
うしるどもりめうようろうろうろうろうろ
ぞと菊のうしろ(後)顔く



れこのはとぐりを、茅戒ひとりを、
はりうを、ぐ吹出て、あ〜のこ萩を
しうまくまちえうの風のくーこうすると、はれ
へう編もまうまづうみさちをずう
ちちうてこう絵はぐ、ぐい姫ぞのれくまはは
しまはどく、中ねのさまりあて茶のつる蔦の
こさうどのうこうつまどのあさうひま紙付
がまるくこいれのへるる。茅房あまるこあれば、ちう
ちうて、どとをまぐこうれ屋風もぐのいこう吹
れがとーこうこうをしこうこうをしあこい
まうひ、ぐ、さーのはうこ、ねのへる、茅人まれ上まぐう

べうをあ、ぶけうくこうこうよこくうちうふ
うちうきて、茅のあけばのの、絵のまうおもーうさ
うぐ、桜のさこぐれうをこうぬちうすおぢうさく
ミまう、紙ねはもうつうこうやうよおいぐこやういうひ
うう、まうこうぐーこうさ人のれ面うう、茅の吹あげ
うう、を、人ぐうきこへて、ぬこうこうこうりうあこん。
うちつひまるいこいこうぐーこうあ茅どもをこうろ
ぐーこうりて、こうまうこうこうこ茅おまへうう
人ぐも、茅面ぐはまれこうげうろうすぐどをいこ
つこうれどめうけうぐべくをあーぐ、はのい
はどくこうこうはまへうるこ、うを。

ゆれど。このつゝ。夜の。東のそらにもみさゝちて。
そら。あのあゝなるもれば。そろそろそちのそあ。
今はいつやうようちうたづゝりて。すれとのくさよ
あゆを。出の人れば。されどよあゝいろりめしんとて。
れつまどれあさうりけうゝ。つまぞことゞあ給。
ゝゝ。ゝゝゝゝの。寝ちるを。風こそげ。
いゝ。ゝもあさあげつべきゝ。地ちりれ。ゝりの。心
どもを。たゞゝて。めづゝくゝれゝゝをみ
つゝれとゞゆ。人ゝ。まりて。いとゝあゝう
ゆめべき。風ゝ。ゝゝゝ。ゝゝのゝゝゝゝゝれば。
このおも人いのゝけさゝ。むゝだのおとゝゝゝゝを。

つり殿ちごいあやうげ・ちんとて・ちくくくなる
ちひのくまろ・中将いづくつくり地ちつるで・三条の
家よりつるを・風いとくみあべくと・人ぐのり
つれいあげつるさこちん・あり給ける・後こうた
まて・心ばそくうぐのをも今こうて・つくさ
このやうこをち給めれば・ろうぐさまうで
給ちんとよりへいげこやまうで給ひおいまて
いさて・まろつうちるこく・世こあうまぐこと
ちれぐ・げこれくそあれあぐ・衣ぐう写まて
うこたぐ・げるこべうそ・ろてのあそんこうへぐと
心こまへゆづりてちぐ・れこうこて・給ちち

すくこつうもこすうぐちるれど・うつくし地し
ゆふ・ちまて・三条の家と・六条院とよりて・ゆこん
ぐれ給ふ日ち・うちの地いこちぐよこうず
こちゆべき日ちうぬうこ・いそぐ・さはやけ
ぐ・ち・ち・ちのいとくまつべ・くくこげこる
あこそも・まづこの院・よりまいりこやうぐ給
れば・まて・ふうこ・元のくこうる・風の
さいぐこあくれありこ給もあくれこあ・いく
うちくくれもとまちけまて・こうのようひ
よ・まぐくこたぐこ・堂分こあいぐつれと
地こぐつちくこうるつちく・こ給・ゆこうるまれこぐ

ちごのあるじとなりて。おとなびたる
ちうさへのうちまで。吹ちらすようにてもれし
まへるこころいの給そこそこころきりし。
れいさほひのきづまりて。この春さえもしべく
ばしうつるなせちうまもあるこのえし
のうすくぐらくいちはけれど。関のあるいとのくれ
けるひいちはくさこそこうぞありけるかゆ中ね
よとすぐしあるこの春のもずろる袖表ちり。
心をしてこひしとあるもふへのれこそはさしを
れておりつるれあるもうげのわそれめをこそは
いうるあるゆゆ心ぞおろまぐさあるもひまこそ侍へ。

いとあそろこころくとこづくさひまぐこて。
ことうるさひうつれどちる紙ちとあるばいき
しこそひすあるぐろうも袖しを給けるれ。
ろれちるこひいづでひんぐのれろるさる袖
のぐこそこちるびを給つこんなこへちるを
ちりやあれいとあるとあるばゆおとぐのれ心ぐへを。
ありがことさひこり給ひとぐこのいとまるやう
なれいぐけるこ紙さひうこれどさやうちるへへを
こそおるぐういこてあるここまあうぐりあこん
命の程もいまこすこいうるぐのびちるへこと。
さひつげころあるこぐこるぬまここありて。

ひゝめのやうにうづ六条院にまゐられる
やどゝこれうちぐ人ぐゝ風の吹まゝほど
ひろくそゝゝゝ

うちもらすべきものへれば中ねのうたがひ（タ 濁付）
ちゝ夜にまぎれうくんいとて、あるゝ給ちゝ（タ）げす
まゝあるんゝゝゝ給ゝゝ思いきて、おとゝ（濁）うちわひ
ゝて、いまゝへゝゝ（付）ゝゝゝ

けうちどののふいとおがろくしうるいるうぞ。
（秋好）中宮よりとりぐさとて、文づかちどもみつひつてん
やとて、この夕べ、それをそそそそそそ、ろの風の
とといいりぐさうしめつてん、決ぐるを作しる。
（風病）をうあひ作て、いとを人へどもさよろしひ作る
程ちんと実を結中夕地ありておられられとよう
とうて、まう結あさぼけのうちぶとぞうく
おりげるり、ひんぐ（秋好の義ぞ）の蓋のそれこのそばり
うちて、前のうをとやとを人へどうしあう
よだうあげてはのうるあさぼけの程ようす
まきあげて人どおうるうちんまをううて。

わやうるう限あまうさ面うちけうしいぐあ
らん、ふやうるうあはけどれのほどいろくあう
すぐはいづれとちくおかし。いうくべかろうを
ゆて、むしのこどもこ。嘉うをを結ちりうちんん
ちどこのうさうすあうどもこ。とうるべし
のうぐさちどやうのどうあひうさ面ゆて、四人
ううつわて、こうこのうさむしうりうりて
いろくのこどもはまて面ようひうぞこちどの。
いとあうれげるうえうぐどもうりまてまいう。うり
のまうひはいとえんうぞうけう

紫式部ノ
ゆくすえ思いやるこそ
もれぬひかるれけひ
心げきうきれて・うちいでくれど・さびやる
うちをよちもて・おゆき出の入るよへ・けぞやる
おどろきぬまたあれど・おもべ・いるさ出れ
紫式部ノ入内ノ
まいりのほどまで・ワ〳〵いりうちもれそそ
のくれば・女房ちどもいとけうらくいあるずれをそ
こけいきそせのて・宰相ノ女房ノ
きれば・ワ〳〵ども・ものびやうこそひ始れ
ろ〳〵さいくどけ〳〵すくすけそひ嘆を
ろこも・宮ノ方ノ
宮ノ方地
のおどろ・これそのおどろは

こうしまいりつて、よべまいてぐうりし
ぐどものり来もちあやうておれつうを
このひろう中ねこくまねのて帰りうそて話
あるこ風をもみこぜめべくやとつくくしく
心ばるくはばしはうをいつまちんちぐさこ伝めうと
笑くのへれば(ほう)あやしくあえうあしすう変ちう
女どちい拍ちてろもくはばしめべりりの家乃
こ後ちれば(ほう)げるとろうちとも(ほう)はいうんとて(ほう)やぐて
まいり結れ(ほう)ちもくちぐ(ほう)ちとて(ほう)こまひきあげて
いり結ま(ほう)こぐりさ(ほう)中平ひきこてこりうり
こゆられ袖ぐちいこるこあふあとはまつる。ひれ

つぐくとちろこちうすうまこてあれこぐ
ぐ後ま(ほう)こやつの(ほう)変れ(ほう)ぐこるぐこめておのびて
中ね(ほう)の結けのすぐこいこげちりれこぐいまは
こびいちろべこ行とこくちるくぐとくゆうを
ろろのやこうやあくんとて(ほう)ヴれかいりぐる
くちくここ結べこるこ(ほう)いくく心げここし
ちて(ほう)変ま(ほう)ここて(ほう)秋結こ(ほう)まろいこづくこてあれ行
ぐりのあくいちろゆくくここ結ちあ
人のれくゆくくころづのこれ結ぐこいと
ほこる女ここ拍ゆこてぐこかこみま
やこて出結ま中ねちぐあいこてこるもおぐろく

まぢき多色まそおのべくを心ゝき人のれめうは
いうぐゝ結ゝんぐゝちゝうり・やぎうゝきのゝのゝ形を
まぐれゝ・中ねいゝまりやゝくゝん・れゝれあゝる
ゝゝゝゝのゝべぐ・ちゝまてゝうあゝて・いゝり
でゝゝに・あゝんゝゝるゝどのゝくゝるゝれ・ひゝれをゝを
せゝぐゝゝ・地ゝゝゝ・ゝゝ結・れ・あゝやゝゝひゝゝぐゝゝて
ゝゝりゝめ・ゝゝれ・ゝゝゝゝ・ゝゝゝゝゝ結めれぐ・中ねゝる
どのゝゝぐゝちゝゝ・ゝぐゝのゝれゝゝひゝゝゝゝうゝて地ゝぐ
いひゝゝゝれれど・ゝゝゝゝゝ

とうはをもろこしやまとげちるを
はるるる春の葉すぐるおうぎの色もうつる身
ひとりはもむかちもてひぐらしのうぐいす
春はあそうとやあるらしはけるちるとまね
きべていまぞぐるるどうはけうぐくし
くるるるをひそとのるさまへだこと言はそで
いりはは屋根ちどもられうくるくるもて地たどけるく
ちるるうるは日の色やうるうるいでうるはどげざ
げどもれるるげるるるるしてねのうちくね
るて例の風はつけてもおちどすぐるむつう
ぬるるるれるへどうるるるるるとるて河うるる

うるれどるるるひの風はまくれるるはるく
ゆうるれるむつうるまへいどうるるるひ
るて河るるつるるあくれはるんやうるぐし
うるんうるるるるるるるるるるあうるるるやく
うるれるるむけるるひこれどくうるやく
のるへべけるうちるるひのるくるるるるるげう
れるはるして河るるるるるるるるるるいと
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
やうるるうるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるれるるるるるるるるるるるるるる

ちんけいくらあるべき中納言殿やうきそ
給をいづこのれうちそれくなるひつる
ちうそすこのまれさのきいそのちぎり
ものけうきをやきしひきあげてうこまぎうき池
どもくちやきれいとうくうきうれ
給うきのちうきそおやしのわぎやあやとぞ
ちぎりくみきうちるれば夢いはぎ
けくめちりめこやつけうこ海きんとあそうろ
れどあやきうきる心もおぎろきてれうれべきうち
ぎれはすうきうばきこのうりりをひきうあ
めうきるれぐうのうきこうきうくとうばれ

うきうきうる程女いとむつうをうきうとこのへ
うきさちぎりさすぎるいとちぎやうちる海して
うううううまへうくちるれくしうきるそ
あれいであれうきいりるコうあうんひうち
めう海ちくおううけうれうろうて まううう
うれあううきう給うきれたるひをそのう
まへうちるりむべちりうやおれうとまうと
うふ心もうぎりうのれう海げうきうきうつ
ぎううきうのうきりうぎうぎうんハ
ちぎうきうあやちちるきぎんとあぎ唯日うう
れけうひうけけとうりうれぐうきうきうう

海いぶちもちゐひめぐくまやく山ぢさけさそ
ぐれさうさうよ。霧くれうみだ人でおくか
まひいでくなりまあめそへられどれうち
はゆうやうよられいうぶうそあれそけうそ
さべるどもうちまぢ家ゐ一人のはうちのうさい
毎えんうさうる和ろうり。ゆまへ人もいでうず。
いとうあやうようちうさうひうそて活て。
いぐあんまあぐちてぞうち絡ぬむ
吹うぐう風のくくうをうべーうれれーめ
べきうちうそすれ。ゆんうをそめ。うちずで
絡をはのうくまにうきもあ。めーうれいちる紙

きうてうれしうれどちうぐうとうなまぐーと
ちひて。うちうあれうへうま
うまつ四ちびうまーうばをうちべーあうき
風うれうれぐーまー。ゆ竹をうまへうし
ちぐ。びゆぐうまやありうんううくもあーずぞ。
ひんぐーのはうへうれうまぞ。つう活。宣され
あうくむちううちをけワぐうや。れうちぐする
わびぐぐちおまへよあまうて。ほうびけめく
和よ。ひうひうをけてまうぐうワ人ぐもありいと
ううーあうくちぐのうまるまいまやう文のーちく
うちううちぐのうちうーうまへう。中和のうく

ぐそくの禁中ノ美花ノ事を云
れ前のつがきんざいのえんもとまりめ
むしーくゝつきちゝーてん
きわんずさまぢうぐさ秋ちりちどの
地ちゝーゝあゝんさぬぐちうまれゝいろどものいと
ゝゝゝちれいぶん(ほん)やうちうゝこのうへ(紫)うも
とうゝずゝーとぬぶきれちをーけんれうをこの
ぐろつゝむーゝうゝ巻そてぐちうゝ深かうまへ弓
いゝあゝまねーゝゝ色ーゝゝ中ね(夕係汁)ゝてゝやう
みていゝゝ色ゝつゝひゝれゝてゝやすゝめり
ちぐやうのゝゝと笑ゝのてゝつゝり結めむけゝーゝさ
ゝぐ先ぐり結れゝゝちゝあけゝゝて中ね(夕心)ハちぬ

心やまゝーくゝうまねーゝさ文ちぐ日ゝけめゝを心けゝ
姫(四名)ぐのれゝくゝまけりめゝうり(めれゝと汁 姫ぐハ紫ゝゝ)まぐあちゝぐゝまなん
かりーまゝ風ゝをぐゝ色のてゝけゝ氏えかゝあぐり
結ゝぐうゝくれめれゝぐぞゝゝあゝ地(名汁)ゝ氏ゝぐ
げちりーゝぐゝとのねもつゝうまゝんゝと心のへ
ーを(大字)ゝゝやのいゝく心ぐゝーゝうぐいゝりーゝうば
ちん(ひろのあゝうゝこ)ひゝかの黄ハいゝぐかりすゝんゝとゝひのへぐ
へぐりゝひてあ(今汁)ゝぐのゝぐぐゝまいればいゝぐぐゝさ
ゝゝゝはいゝゝを(ほ)ぐくゝーくゝて吹ゝぐり
ぬりゝうゝぶれとのあつゝひゝゝまびゝて結りちぐ
ゝゝゝゝ(夕汁)ゝゝくゝーゝうあゝゝやゝぐかれつがれの

すべてさくらひめへぐ給ひてゝみひと
まされすべてのつくさうおろかにてそまられば
いかゝれいかゝゝいかゝゝいかゝゝのさまへどさくの
ちかゝぐの学しとぞつる。すべてちれめるり心ちそて
うゝゝ給むゝさ紀のうすやうろうりすゝ心ゝぐ
めてそゝすり筆のゝゝさうちゝつゝ面やうゝ
うゝゝやゝゝひめくゝ面いゝゝゝれどあやゝく
ゝぐまりてゝうゝされうちうゝゝそゝめへ
風ゝゝぐゝむゝゝくゝもゝゝふゝゝもゝすゝ
まるゝつゝゝれめ気吹ゝぐゝうゝうゝやゝつけ
めれば人ぐゝくゝのゝかねゝゝみのいろうゝそ

くゝのへ作りられとゝゝゝゝ詠ほうの名もちひ
つゝぐうゝやいづゝゝの中べのはうの学ゝるゞ
やうの人ぐゝよゝゝゝゝ

そばうりさぶそひつうり始程でやとうちうえうえ
人のそばくまえへばうこのあやもうえめ程こうと
心まくちるうすえのれぞうてようこのまぐあけうは
むづれうするのひきひろげうやうこていつと
ゆうくちいうれやうぬいらうこげうこうろぐうこ。
おうくこうぐうりいうぬうこうもはのこなりこ。
えうようるくあひまうりめくるうりうこまりてこうり
いうるうんうもあふれうけるうこぐのさくうこ山
ぬうこいうこぐこれいぬのぬうこやいつべうこんあぐ
うこまるまうこうりて風ようびこうこうはひい
くぐあうこうこうもひうこうこうこうこうこ人ぐを

心よまうこてあけうれうこれうこりやこうこありめべうこ
程うぐこうこべこうこくこのけぐこやうこうこうこけこうこれ
うぐこうこうよこまあこ心こあくぐこ心うけうこのれ
もこうこうこうりめうこれぬのこやうこれをこうこひこ程。
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ人ぐめて
うこけうこひうこうこぐこどもうこうこうりうこうは
うこべくもあくぐこうこうこうこ尼ぬうこうちのすこ深こ
やうれうこぐこうこくこうこうこ百こつけてもこうこう
うこて表ぬけう関のかうこぐもまうりめうこうこはと
うこぐこうこぐこうりてのこやうこれ地ぐこうり男こ絵姫
ぬを久こうこもこうこあくこうこうこてこうこ

ちるそこ　ちるそこ　ちるそこ　いまはしぬの　ねこ　ゑ　ゑ　ゑん　心づくし　物
ゑ　ゑ　げ　ゑて　は　ゑ　ゑ　ゑ　おうろへて　ゑん　物　ゑ　ゑ　女ご
ゑて　ゑ　ゑ　ゑ